

H 中世の秋田と佐竹氏をひも解く ～東大史料編纂所協力～(定員200名)

有料講座(1回440円)

会場：秋田県生涯学習センター

東京大学史料編纂所の共同研究に協力する研究者が秋田県や佐竹氏に関わる史料に基づく研究成果を直接県民のみなさんにお伝えする講座です。最先端の歴史学の成果に触れるまたとない機会です。

日	時	テーマ	講師
H1	9/12 (土)	新羅三郎義光と後三年の役	茨城大学人文社会科学部 教授 高橋 修 氏
H2	10/10 (土)	鎌倉～南北朝期の佐竹氏	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授 高橋 典幸 氏
H3	11/14 (土)	関東戦国史における佐竹氏 ～中央と地方との関係～	東京大学 助教 木下 聡 氏
H4	12/12 (土)	石田三成と佐竹氏	東京大学史料編纂所 准教授 金子 拓 氏

東京大学史料編纂所の共同研究に協力する研究者が、秋田県や佐竹氏に関わる史料に基づく研究成果を直接県民のみなさんにお伝えする講座です。最先端の歴史学の成果にふれるまたとない機会です。

H1 9月12日(土)

「新羅三郎義光と後三年の役」茨城大学人文社会科学部教授 高橋 修 氏



佐竹氏の祖先に当たる新羅三郎義光(源義光)が後三年合戦で見せた振る舞いと、都の武士としての活動の様子が大きく異なることを通じて、河内源氏の庶子として「影」の立場・仕事を担わざるを得ない義光の立場を分析しました。その上で、地方所領を持つことの旨味を熟知している義光に対し、後三年合戦で戦った清原氏が所領を見返りに降伏・助命の仲介を期待するなど、義光と清原氏とが連携を深め、さらに清原氏から得た所領を基盤に佐竹氏が成立していったことを学びました。

H2 10月10日(土)

「鎌倉～南北朝期の佐竹氏」東京大学大学院人文社会系研究科准教授 高橋 典幸 氏



鎌倉～南北朝期の佐竹氏についての史料は少なく、その活動はよく分かっていません。そのため、新しい史料の発見や、これまで知られていた史料を再検討する方向で研究が行われている旨説明がありました。

その上で、治承・寿永内乱期(いわゆる「源平合戦」の時代)には常陸の有力勢力だった佐竹氏が、鎌倉時代には近隣の勢力と婚姻ネットワークを結んで勢力の維持に努め、南北朝期には一貫して室町幕府側として戦い、その結果常陸守護へと成長していった過程を知ることができました。

H3 11月14日(土)

「関東戦国史における佐竹氏～中央と地方との関係～」

東洋大学文学部史学科准教授 木下 聡 氏

本講座では、室町～戦国期における佐竹氏の歴史と中央権力との関係を、各当主の段階ごとに見ていきました。15世紀には、有力庶家の山入氏との対立や、兄弟・親子間での抗争が続いたものの、16世紀になると佐竹本家がその権力を確立しました。その後、常陸北部を確保し、16世紀半ば頃には常陸中部や陸奥南部に勢力圏を築き、16世紀後半には当主佐竹義重の下、北関東の盟主としての地位を固めました。このように権力を高めていく過程で、中央の幕府や朝廷との交渉も継続的に行われ、豊臣政権期には石田三成が交渉の窓口となっていたことを学びました。



H4 12月12日(土)

「石田三成と佐竹氏」東京大学史料編纂所准教授 金子 拓 氏



「秋田藩家蔵文書」の内容・意義に触れた上で、同史料中に確認できる石田三成と佐竹氏とのやりとりを基に、両者の関係について学びました。

戦国時代の佐竹氏は、関東・南奥羽で勢力を拡大する北条氏・伊達氏と対立を繰り返しました。その中で、豊臣政権との取次を務めたのが石田三成でした。石田三成は細やかに佐竹氏にアドバイスを送り、佐竹氏はそのおかげで改易を免れるなど、両者の結びつきは極めて強いものでした。しかし、そのために関ヶ原の戦いの時に動きが取れず、それが戦後の転封へと繋がっていったことを理解できました。